

二重丸型印 K G 型

平尾 勉

二重丸型日付印(二重丸型印)は明治6年4月1日に郵便物がきちんと通送されているかの確認が一度で出来る様に、局名、年号、月、日、便号が入ったN1B1型が3府5港の他8郵便局で使用されて、その後全国展開をする事になったが、1日1便の局が大部分で便号が不要で便号の代わりに郡名が入ったKG型が考案されて、明治7年頃より配給が始まり、明治8年半ばには全国3,200の局で使用されることになりました。

全国の各国毎での使用例を展示します。

一部未収があり、未完成です。

U小判の郵便印
二重丸型印
明治16年1月～明治21年8月

U小判は、万国郵便連合が加盟国間の利便性の為に、外国郵便の基本料金額面の切手の色を揃える事になり、印刷物が緑系、葉書が赤系、書状が青系の取り決めに従い、それぞれ1銭が緑、2銭が赤、5銭が青で、明治16年1月1日に発行された。



印刷物 1銭



葉書 2銭



書状 5銭

二重丸型印は郵便創業2年後の明治6年4月1日、5段階制の郵便料金を全国均一料金に改める際に、郵便物がきちんと通送されている事の確認が一度で出来る様に、局名、年号、月、日、便号が入ったN1B1型が考案されて最初に3府5港と他の8郵便局で使用を始めた。その後、30種以上もの型式の二重丸型印が考案されて全国の郵便局で使用された。U小判切手の発行日と郵便条例施行日の、明治16年1月1日には型式も整理され代表的な4つの型式と少数の局で使用した8型式に絞られ、U小判切手に其の印影が見られる。

N1B1型



明治六・九・二十六・日中

構成因子

年号表示(N) N1: 明治9 N2: 9年 N3: 9
 便号表示(B) B1: 漢字 B2: 平仮名 B3: 片仮名
 国名表示(K) K: 国名
 郡名表示(G) G: 郡名
 径の表示(D, d): 同型式での径の大小

KG型印

証示印として全国に二重丸型印の配布をしようとしたが、殆どの局は1日1便で便号は不要で便号が無いKG型印を考案し、明治7年5月頃より東海道筋と関東地区で一部の局に配給。全国の1日1便の局に配布するのには、1個に43箇の月、日の活字が必要で制作に手間取って、全国の3,200局に配布されたのは明治8年中頃になった。当初は不統一印、記番印で抹消してKG型印は証示印として使用されたが、徐々に抹消印としての使用が増加、明治12年頃には不統一印、記番印は殆ど姿を消した。明治7年以前から使用されていた型式の二重丸型印が姿を消していく中で、KG型印だけは1日1便の局で明治21年8月31日まで使用された。最も使用局が多い消印であった。



二重丸型印類 KG型 福島局



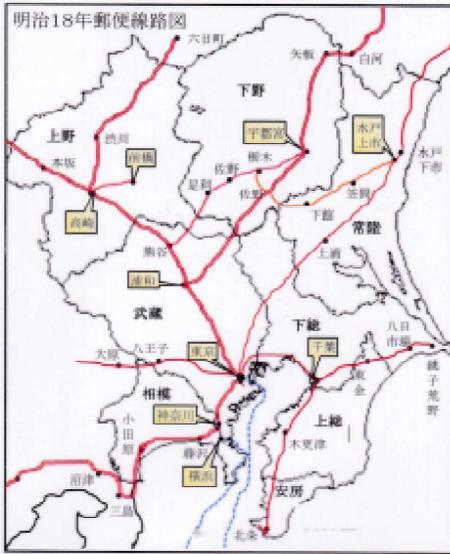
岩代(K:国名) 信夫(G:郡名)
 国名・郡名は固定 月、日は入替式

二重丸型印

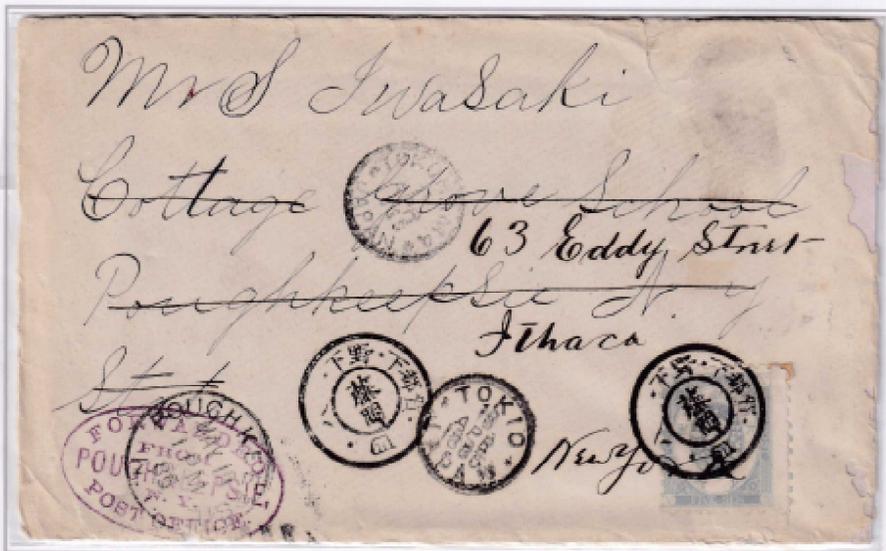
KG

関東地方

甲信越地方



下野国 藤岡



明治18年4月8日

米国宛書状料金5銭

下野国 下那賀郡 藤岡 → 横浜 → SAN FRANCISCO ⇒ POUGHKEEPSIE N.Y ⇒ ITHACA N.Y

抹消印: ◎KG 下野 下那賀 藤岡 4. 8 中継印: 小型20m/m TOKIO JAPAN 16 APR 1885

中継印: 小型20m/m YOHAMA JAPAN 17 APR 1885 出帆日: APR.17 City of Rio de Janeiro

中継印: ○ SANFRANCISCO CAL MAY.6 到着印: ○ POUGHKEEPSIE N.Y MAY

転送印: FORWARDED POUGHKEEPSIE POST

到着印: ○ ITHACA N.Y 14.MAY

二重丸型印

KG

北陸地方

東海地方



越中 小杉



能登 大念寺新



加賀 大聖寺



越前 坂井港



若狭 日笠



飛騨 朝日村甲



美濃 垂井



伊豆 長津呂



駿河 清水



遠江 相良



三河 新城



尾張 横須賀



伊賀 平田



伊勢 開



志摩 鵜方

二重丸型印

KG

北海道地方

根室国 根室

北見国 香深 (礼文島)



明治18年5月14日
 根室国 根室郡 根室
 ⇒ 近江国 東浅井郡 東野村
 抹消印:◎KG 根室 根室 根室 5. 14
 抹消印は月日が誤植 14. 5
 第1種料金 2銭



明治 年8月21日
 北見国 礼文郡 香深村 (礼文島)
 ⇒ 加賀国 江沼郡 柏野村
 抹消印:◎KG 北見 礼文 香深 8. 2
 到着印:◎KB2 加賀 大聖寺 8. 19. は
 第1種料金 2銭